

伊弉諾神宮に初詣

初詣に参加した会員のみなさん



最古の社に 願い込めて

渦に下る
くし
眼鯛

毎年恒例の千支神社への初詣は、令和4年1月11日、淡路島の日本最古の神社と言われる「伊弉諾（いざなぎ）神宮」へ34名で行きました。

当日は、あいにくの雨模様でしたが、皆様今年初めての行事であり、楽しみにされていた様です。

貸切バスには塚本からの会員が先に乗車されており、新大阪からの方々に温かく声をかけてくださり元氣よく出発です。

行きのバスの中では、企業4社より両口屋千支のお菓子・ミニ消毒液・歯みがき粉ハブラシ・ジップ・パック（冷蔵保存用）等々を頂き、一路淡路島へ、鳴門大橋をわたると目的地の「伊弉諾神宮」です。

この神宮は、古事記・

日本書紀の冒頭に、その成り立ちが記されています。神代の昔に伊弉諾大神が、御子神の天照皇大神に統合の権限を委ね淡路の多賀の地に「幽宮（かくりのみや）」を構えて、余生をすごされた旧跡と伝えられている日本最古の神社と言われているとあります。地元では、日本

第一番の宮であることから「いっくさん」とも呼ばれて親しまれています。昭和29年に昭和天皇が「神宮号」を宣下されたので、伊弉諾神宮と改称し、兵庫県唯一の「神宮」に昇格しました。

神宮でもコロナ対策として、消毒液はもちろん参道も入口出口はビニールで分られており、本堂にも仕切りが設置されておりました。ご朱印やお守りなど、会員の方々も

求められており、一年の願いも、しっかりとされたいと思います。

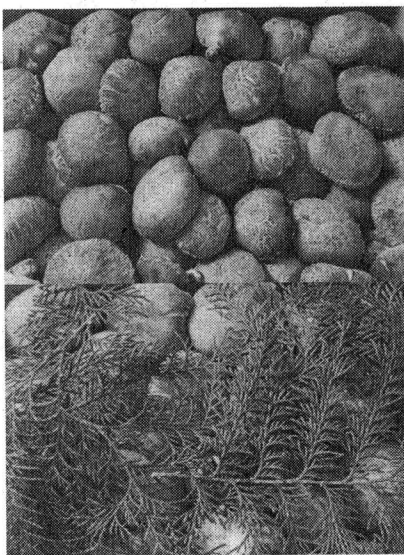
次の目的地は、昼食場所である「うずしおレストラン」です。鳴門の渦を見下ろせる場所ので、「鯛づくし会席」を食しました。鯛じゃぶ・塩焼き・鯛そうめん等々、盛り沢山で、おなか一杯になりました。食後「うずしおレストラン」では海産物や玉ねぎなどの買い物をして、次の「たこせんべいの里」と「ハイウェイオアシス」と寄り又々、お買い物三昧でした。

帰りの車中では、恒例のビンゴゲームがあり今回も九州名産品が続々とゲットされ、汗だくで乗員の間瀬さんが奮闘されておりました。いつもながらご苦労様でした。

また、わざわざ故郷の大分から取り寄せされた生しいたけを車中で各自おみやげに頂戴し、帰路の時間帯には、雨もあがり気持ちの良い夕焼けが空を彩っていました。

皆様、一日お疲れ様でした。

コロナ感染症の一日も早い収束を祈ります。



原木生しいたけ